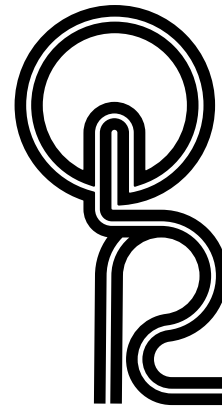


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 6 No. 1, 1999



写真：長野県富士見西方，中山北端に出現した糸魚川 静岡構造線活断層系若宮断層の後期更新世の活動を示す大露頭． A：0n-Pm1，B：扇状地堆積物 太田陽子撮影（本文参照）

Vol. 6 No. 1		February 1, 1999	
日本第四紀学会論文賞について	2	IGCP-396 国際会議	12
地球惑星科学関連学会合同大会	2	Sweden Excursion 1999	13
八丈島・始良 Tn 露頭の保存	9	第四紀研究連絡委員会議事録	15
糸静線・富士見付近の大露頭	10	幹事会議事録	16
『アジアにおける陸と海のリンク』		会員消息	16
国際ワ - クショッブ	11		

日本第四紀学会論文賞受賞候補者の推薦について

本賞は会誌「第四紀研究」に優れた論文を発表した会員の表彰を通じて、第四紀学の進歩と本学会の発展を図ること目的としています。本賞は規定により、毎年、会員の皆様からの自薦・他薦によって候補者をご推薦いただき、論文賞受賞候補者選考委員会において候補者の選考を行います。受賞者は6月末日に決定され、8月に京都大学で開催される1999年度総会で表彰されます。なお、第四紀学会論文賞規定と同賞選考に関する内規は第四紀通信 Vol.1 No.4、Vol.4 No.5（評議員会議事録）をご参照下さい。

1. 選考対象：「第四紀研究」第36巻（1997年）および第37巻（1998）年に掲載された、会員を筆頭者とする原著論文、短報、総説および特集号の論文。
2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、受賞候補者名、受賞候補論文名（巻号頁を明記）および推薦理由を記入する。
3. 推薦書類の提出先：〒113-8822 東京都文京区本駒込5-16-9（財）学会事務センター内 日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会
4. 推薦書類の受理期限：1999年3月31日（必着）

1999年地球惑星科学関連学会合同大会

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース No. 17（1998年12月）より

1999年地球惑星科学関連学会合同大会

会期：1999年6月8日（火）-11日（金）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

各種締切日

- 講演登録最終締切 1999年2月26日午後5時
参加登録締切 1999年3月31日午後5時
青少年総合センターへの宿泊登録締切 1999年3月31日午後5時

上記の各種登録は下記の合同大会ホームページから行なっていただきます。

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/>

目次

- § 1 合同大会案内サマリー
- § 2 セッション案内
- § 3 個人情報登録，講演登録，参加登録，宿泊登録，支払登録 § 4 投稿費および参加費
- § 5 青少年総合センターへの宿泊
- § 6 大会組織委員会からのお知らせ
- § 7 住所変更の連絡について

§ 1 合同大会案内サマリー

下記の URL に 1999 年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

合同大会ホームページ <http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/>

詳しくは上記のホームページを御覧下さい。情報は随時更新しますので、参加者はぜひ時々御覧いただくようお願い致します。

日本第四紀学会 1999 年大会

- 日 時： 1999 年 8 月 23 ~ 25 日 一般発表、総会、シンポジウム
8 月 26 ~ 27 日 巡検（2 日）
会 場： 京都大学理学部

§ 1.1 各種の登録 (§ 3 参照)

以下の登録はすべて上記ホームページから行なっていただきます。

1) 個人情報登録

2) 参加登録

1) と 2) は参加者全員に必須です。2) を行なうためには、前もって 1) が必要です。

講演申し込みをされる方は 1), 2) に加えて

3) 予稿集原稿登録

を行なってください。共著の場合は、共著者についても 1) が必要です。ご注意ください。

会場の青少年総合センターへの宿泊を希望される方は、1) - 3) に加えて、

4) 宿泊登録 (§ 5)

を行なってください。

§ 1.2 各種登録締切日および費用

予稿集原稿登録 (§ 4.1 参照)

締切：2月26日(金)午後5時

投稿費(1件につき)：1,000 - 5,000円 図については追加料金による処理を検討中です。

参加登録 (§ 4.2 参照)

締切：3月31日(水)午後5時

参加費：一般5,000円、学生2,000円

宿泊登録 (§ 5 参照)

締切：3月31日(水)午後5時

宿泊費：4泊5日固定スケジュールで

ユースホステルタイプ 11,000円

ビジネスホテルタイプ 19,000円

§ 1.3 保育希望の方へ

合同大会開催時間中に、1 - 6歳児の保育(実費負担)をご希望の方は、

以下のアドレスまで電子メールでご連絡ください。

1999年合同大会保育室組織委員会

幹事：地質調査所 地殻物理部 森尻理恵

電子メールアドレス：g8808@gsj.go.jp

§ 1.4 住所変更 (§ 7)

プログラムおよび予稿集 CD ROM は5月頃に地球惑星科学関連学会事務局から発送される予定です。

転勤・卒業等で住所変更がある方は、§ 7の要領で3月31日までに住所変更手続きを行なってください。

§ 2 セッション案内

講演要旨の投稿は1 - 2月に合同大会ホームページ (§ 3 参照) 上で行なっていただきます。

最終締切りは2月26日(金)です。

電子投稿に関する質問は下記で受け付けます：

1999年地球惑星科学関連学会合同大会 登録事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目4番9号

サンケイビル本館7階

e-mail: earth99staff@jtbcom.co.jp

Fax: 06-6456-4105

(注 局番の頭の「6」は1月1日よりおつけください。)

どうしても電子投稿の手段が確保できないという方は下記にご連絡下さい。

1999年地球惑星科学関連学会合同大会 組織委員会

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学地震火山研究観測センター内

E-mail: loc99-question@eos.hokudai.ac.jp

Fax: 011-746-7404

§ 2.1 セッション一覧

セッション一覧は現時点では <http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/sesyon/sesyon.htm> で見ることができます。それぞれのセッションについての問い合わせは、上記サイトに書かれている各連絡先へお願いします。上記サイトに置かれているセッション一覧リストを以下に示します。ご参考まで。

凡例 確定記号： セッション名 連絡先： 電子メール

Av: 火山活動のモニタリング，噴火現象の解明と災害予測

谷口宏充: taniguti@mail.cc.tohoku.ac.jp

Am: 地層処分に関わる地球科学的課題 武田精悦: sft@tono.pnc.go.jp

Ap: 21世紀の深海掘削と地球科学へのインパクト 平 朝彦: ataira@ori.u-tokyo.ac.jp

Ai: 地球内部の構造・物性と大規模物質循環のダイナミクス

大谷栄治: ohtani@mail.cc.tohoku.ac.jp

As: 地震・火山現象の解明と災害軽減のための史料地震・火山学の役割

小山真人: mkoyama@ed.shizuoka.ac.jp

Ae: 地球惑星科学の電磁気学的透視図 藤本正樹: fujimoto@geo.titech.ac.jp

Af: 地球科学における「乱流」へのアプローチ 伊賀啓太: iga@riam.kyushu-u.ac.jp

Ah: 全地球史 川上紳一: kawa@cc.gifu-u.ac.jp

Aw: 地球惑星進化における水の役割 奥地拓生: okuchi@eps.nagoya-u.ac.jp

Da: GPS 気象学 (II) 島田誠一: shimada@geo.bosai.go.jp

Db: 測地学一般 飛田幹男: tobita@gsi-mc.go.jp

Dc: 地球計測技術 山本明彦: star@eos.hokudai.ac.jp

Dd: 地殻変動 藤森邦夫: fujimori@kugi.kyoto-u.ac.jp

De: 海半球ネットワーク - 観測網の展開と新現象の発見 - 深尾良夫: fukao@eri.u-tokyo.ac.jp

Df: 海底拡大系の地球科学 玉木賢策: tamaki@ori.u-tokyo.ac.jp

Dg: 固体地球シミュレーター計画 - 固体地球変動の定量的予測に向けて

松浦充宏: matsuura@geoph.s.u-tokyo.ac.jp

Ea: 大気圏の力学・化学過程 湯元清文: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

Eb: 地球内部電磁現象 (電気伝導度・地殻活動電磁気学・磁場)

湯元清文: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

Ec: 地球・惑星磁気, 古地磁気, 岩石磁気, 磁気異常 湯元清文: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

Ed: 電離圏・熱圏構造とダイナミクス 湯元清文: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

Ee: 磁気圏 - 電離圏結合 湯元清文: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

Ef: 磁気圏構造とダイナミクス 湯元清文: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

Eg: 太陽圏・宇宙線・太陽地球環境変動 湯元清文: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

Eh: 宇宙プラズマ素過程・プラズマ波動 湯元清文: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

La: 脆性破壊 - 塑性変形領域の断層岩と地震 藤本光一郎: fujimoto@gsj.go.jp

Lb: 放射線効果による若い地質試料の年代測定とその新しい応用

豊田 新: toyoda@dap.ous.ac.jp

Lc: 古気候・古海洋変動のダイナミクス 多田隆治: ryuji@geol.s.u-tokyo.ac.jp

Ld: 第四紀 斎藤文紀: yoshi@gsj.go.jp

Ga: 大陸の形成・消滅過程と地球物質循環 木村 学: gaku@geol.s.u-tokyo.ac.jp

Gb: 花崗岩質マグマおよび高温 - 超高温変成作用 今井 亮: akira@geol.s.u-tokyo.ac.jp

Gc: 地質一般 渡辺暉夫: teruwata@cosmos.sci.hokudai.ac.jp

- Gd: 岩石・鉱物の変形微細構造と物性 竹下 徹: toru@letitbe.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp
 Ge: 上部マントル-海洋地殻の形成と上昇 宮下純夫: miyashit@sc.niigata-u.ac.jp
 Ma: 地球表層での化学過程と物質循環 河村公隆: kawamura@soya.lowtem.hokudai.ac.jp
 Mb: 地球表層での鉱物・水・大気・微生物の相互作用
 村上 隆: murakami@min.s.u-tokyo.ac.jp
 Mc: 岩石・鉱物・資源・固体地球化学 有馬 真: arima@ed.ynu.ac.jp
 Md: 地球惑星物質の物理化学 河村雄行: kats@geo.titech.ac.jp
 Pa: 火星：探査と理論研究 品川裕之: sinagawa@stelab.nagoya-u.ac.jp
 Pb: 惑星大気 竹内 覚: se039153@ssat.fukuoka-u.ac.jp
 Pc: 比較惑星系形成論の展望: 観測と理論 渡邊誠一郎: seicoro@eps.nagoya-u.ac.jp
 Pd: 惑星科学 阿部 豊: ayutaka@geoph.s.u-tokyo.ac.jp
 Pe: 太陽系における衝突 門野敏彦: kadono@eps.nagoya-u.ac.jp
 Pf: 月の科学と探査 岡田達明: okada@planeta.sci.isas.ac.jp
 Sa: 海底に開く窓——海底での観測手段とそのデータ回収
 島村英紀: shima@lobs.sci.hokudai.ac.jp
 Sb: 活断層と古地震 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Sc: 地殻の温度構造と熱過程 木下正高: masa@scc.u-tokai.ac.jp
 Sd: 地震計測・処理システム 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Se: 地震理論・解析法 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Sf: 地震一般 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Sg: 強震動・地震災害 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Sh: 地盤構造・地盤震動 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Si: 地震発生の物理 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Sj: 地震に伴う諸現象 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Sk: 島弧及びその周辺の構造とテクトニクス 平田 直: hirata@eri.u-tokyo.ac.jp
 Sm: 地震活動 森田裕一: taikai-kikaku@eri.u-tokyo.ac.jp
 Va: マグマのダイナミクス 佐藤博明: hsato@kobe-u.ac.jp
 Vb: マグマの生成と火山深部構造・プロセス福岡孝昭: tfukuoka@ris.ac.jp
 Vc: 火山の形成過程 鎌田桂子: kamata@kobe-u.ac.jp
 Vd: 岩手火山等の最近の火山活動 西村太志: nishi@zisin.geophys.tohoku.ac.jp
 Ve: ハワイ型火山：その成長と終焉 高橋栄一: etakahas@geo.titech.ac.jp

§ 3 個人情報登録, 講演登録, 参加登録, 宿泊登録, 支払登録

上記の各種登録は § 1 で書いた「合同大会ホームページ」の下に置かれている以下のページにて行なっていただきます。

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/touro/index.html>

登録内容は以下のとおりです：

1. 個人情報登録(個人情報 ID 番号 取得)
2. 予稿集原稿登録, 参加登録, 宿泊登録
3. 支払登録

個人情報登録と個人情報 ID 番号

合同大会に関係するすべての関係者の方々(共著者を含む)には、まずは、個人情報登録を行なっていただき、個人情報 ID 番号を取得して頂きます。登録された個人情報は、個人情報 ID 番号によって参照され、予稿集原稿登録, 参加登録, 宿泊登録, 支払登録 に利用されます。この際、講演者だけでなく共著者も個人情報 ID

学会からのお知らせ

番号の登録が必要です。共著者の個人情報 ID 番号が登録されていない場合は、予稿集に共著者名が載らないこととなりますのでご注意ください。個人情報登録後は、著者リストには個人情報 ID 番号を入力するだけで OK です。

個人情報登録のために必要な情報としては以下を予定しています：

氏名(漢字, カタカナ, 英語) 姓と名別々に
所属学会(複数選択式)
所属機関名(漢字, カタカナ, 英語)
所属機関名略称(漢字, 英語) (表示用)
所属機関住所(漢字, 英語)
身分(学生, 一般 選択式)
学生証番号(学生の場合) (学生確認用)
一般の場合タイトル(教授, 助教授, 助手, 等)
TEL, FAX, E-mail

これらのデータは次年度以降の合同大会への各種登録の基礎データとして保存される予定です。

予稿集原稿登録, 参加登録, 宿泊登録

詳細は § 1 に書いた「合同大会ホームページ」の下に置かれている <http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/touro/index.html> を御覧ください。必要な情報は 1998 年大会とほぼ同じです。

予稿集原稿は原則として、通常テキスト形式のみとします。図については現在検討中ですが、図処理用料金支払いで受け付けることになる予定です。

支払登録

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/touro/index.html> を御覧ください。

プログラム編集作業

現段階では仕様は未定です。各セッションのセッションマスター 1 名(提案者, 連絡先, コンピーナ等うちの 1 人)がプログラム編集用のホームページにて作業を行ないます。プログラム編集作業用ページ(コンピーナ用): テストページ <http://www.jtbcom.co.jp/tikyu9901/>

§ 4 投稿費および参加費

クレジットカード払いまたは郵便振り込みが可能です。

§ 4.1 予稿集原稿登録料

受付日時

~ 1 月 26 日(火)午後 5 時	1,000 円
~ 2 月 19 日(金)午後 5 時	1,500 円
~ 2 月 24 日(水)午後 5 時	2,000 円
~ 2 月 25 日(木)午後 5 時	3,000 円
~ 2 月 26 日(金)午後 5 時	5,000 円

予稿集原稿に図を入れた場合の、図処理用料金は検討中です。
決まり次第、合同大会ホームページ(§ 1 参照)に掲載します。

§ 4.2 参加費

事前登録: 3 月 31 日(水)午後 5 時まで

一般 5,000 円
学生 2,000 円

当日登録: 大会前日および期間中の会場の総合受付にて。現金払いのみ。
(大会前日は午後 5 時~ 9 時, 大会当日は午前 8 時 30 分~ 午後 4 時の予定)

一般 8,000 円
学生 5,000 円*

(* 学生の当日登録は、ホームページ上にある学生証明書に指導教官の印と必要事項を記入したものをその場で提出した場合のみ、認められます。)予稿集原稿登録料と参加費は(センター宿泊の場合は宿泊費も)一括請求されます。クレジットカード払いの場合は登録したカードから自動的に引き落とされ、郵便振り込みの場合は 3 月 31 日以降に振り込み用紙が郵送されます。

§ 5 青少年総合センターへの宿泊

大会会場の青少年総合センター附属の宿舎の宿泊予約の締め切りは3月31日です。宿泊予約は下記のホームページ上でのみ行っており、郵便、FAX等ではできません。http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/touro/index.html

宿泊は大会前日の6月7日から11日朝までの4泊一括のみを受け付けます。チェックイン時間は6月7日の午後5時から9時までです。午後9時以降のチェックインはできませんのでご注意ください。

部屋はすべて個室で、4泊の料金はユースホステルタイプ(ベッドメイキングを利用者が行う)が11,000円、ビジネスホテルタイプ(バス・トイレ付き)が19,000円です。

他に旅行者による宿舎、航空券の斡旋があります。詳しくは「合同大会ホームページ」(§1参照)を御覧下さい。

§ 6 大会組織委員会からのお知らせ

§ 6.1 電子化の継承および合同大会参加費・投稿料について

1998年の合同大会は電子化された最初の大会として成功を収めました。電子化のかなりの部分は、東大LOC、特に寺沢プログラム委員長と関係諸氏の超人的な努力と能力によって初めて成り立っていたため、今回、北大LOCがそれをそのまま引き継ぐことは不可能であることが分かりました。北大LOCとしては、今後どの機関がLOCを引き受けても、電子化を継承できる仕組みを構築しておくことが有用と考えました。この結果、せめてある程度の経験と熱意のありそうな業者に外注する形で電子化を継続・発展させることにしました。このやり方がうまく行けば、来年度以降のLOCはもっと楽に、同様な運営が可能となることを願っています。今年度は、初めての試みも多くあるため、皆様にご迷惑をお掛けしたり、戸惑いを与えることも多々あることと思われませんが、今後の合同大会の円滑な運営のための布石として、ご理解とご協力をお願い致します。今回の大会でも、予稿集原稿登録料と参加費の傾斜方式を採用することにしましたが、この傾斜が前回よりはきつくなっています。締切間際の事務量の集中を避けるためです。今年度も従来どおり学生会員の登録費を大幅に安くしています。しかし前回までは学生がどうかの同定の問題が生じたと聞いていますので、今回は登録手続きを多少改訂しました。その結果、学生にとっては手続きが少し増えましたが、合同学会の主旨をご理解いただき、ご協力をお願い致します。

§ 6.2 懇親会場

ポスター会場近くのレセプションホールに最終日を除く毎夕、ビールなどを飲みながら議論・歓談できる空間を設けます。

§ 6.3 展示申請

個人・企業などによる機器・書籍などの展示を希望される方は、次の3項目を文書に明記して、2月末までに大会組織委員会(§6.5参照)に申請して下さい。

- 1) 展示内容
- 2) 必要スペース
- 3) 責任者(FAX, e-mail)

§ 6.4 会合・集会申請

会合または集会を希望される方は、次の5項目を文書に明記して、2月末までに大会組織委員会(§6.5参照)に申請して下さい。

- 1) 会合または集会名
- 2) 人数
- 3) 希望開始・終了時刻
- 4) 責任者(FAX, e-mail)
- 5) 食事の必要性。(ただし会場側の規則により、食事を伴う会合・集会が可能な場所はわずかしかありませんので、ご承知おき下さい。)

§ 6.5 1999年合同大会組織委員会の構成と連絡先

大会委員長	島村英紀	shima@lobs.sci.hokudai.ac.jp
実行委員長	山本哲生	yamamoto@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
企画委員長	宇井忠英	ui@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
同副委員長	岡田尚武	oka@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
広報委員長	小泉 格	itaru@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
プログラム委員長	中嶋 悟	satoru@cosmos.sci.hokudai.ac.jp,
情報化委員長	林 祥介	shosuke@gfd-dennou.org

学会からのお知らせ

経理委員長	蓬田 清	yomo@crane.sci.hokudai.ac.jp
同副委員長	鈴木徳行	suzu@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
LOC NL 管理委員長	山本明彦	star@eos.hokudai.ac.jp
事務局長	藤野清志	fujino@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
事務局各担当		
受付	渡部重十	shw@pspace.sci.hokudai.ac.jp
会場	在田一則	arita@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
宿泊	豊田和弘	kazuhiro@high.hokudai.ac.jp
アルバイト	橋元明彦	akihiko@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
ポスター	新井田清信	kiyo@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
広報	倉本 圭	keikei@neko.lowtem.hokudai.ac.jp
秘書	嘉納智子	tomoko@cosmos.sci.hokudai.ac.jp
連絡会事務局長	本蔵義守	yhonkura@geo.titech.ac.jp

お問い合わせ先

大会全般・大会プログラムなど内容に関して：
1999 年地球惑星科学関連学会合同大会 組織委員会
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学地震火山研究観測センター内
E-mail: loc99-question@eos.hokudai.ac.jp
Fax: 011-746-7404

参加登録・講演登録など実務作業に関して：
1999 年地球惑星科学関連学会合同大会 登録事務局
〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 4 番 9 号サンケイビル本館 7 階
e-mail: earth99staff@jtbcom.co.jp
Fax: 06-6456-4105
(注 局番の頭の「6」は 1 月 1 日よりおつけください。)

§ 7 住所変更の連絡について

合同大会のプログラムは地球惑星科学関連学会事務局が管理する共通名簿に基づき、各人に郵送されます。転勤・卒業等で住所変更がある方は、3 月 31 日までに以下の要領で住所変更手続きを行なってください。

連絡先：

地球惑星科学関連学会事務局長 本蔵義守
e-mail address: yhonkura@geo.titech.ax.jp
〒152-0033 東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学理学部地球惑星科学 Fax: 03-5734-3537

必要事項

氏名 (アルファベット表記):
氏名 (漢字表記):
新住所 (郵便番号も):
TEL:
FAX:
e-mail:

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース 第 17 号 1998 年 12 月 2 日発行

発行： 地球惑星科学関連学会連絡会
幹事 坪井誠司 (日本地震学会)
編集： 1999 年合同大会実行委員会
委員長 山本哲生 (北海道大学大学院理学研究科)
地球惑星科学関連学会連絡会
編集委員 加藤尚之 (日本地震学会)

東京都八丈町で行われた始良Tnテフラ露頭の保存

菅 香世子 (東京都港湾局整備部建設調整課)

日本第四紀学会刊行の「第四紀露頭集」に掲載された八丈島の始良Tnテフラの露頭が、八丈町教育委員会によって保存されたので、ここで紹介する。

八丈島は東京の南約290kmの洋上にある玄武岩の火山島で、端正な円錐形火山の西山(八丈富士)と複雑な地形と構造を持つ東山(三原山)とからなる。最近明らかになった噴火史から、八丈島ではステージごとに活動するマグマの種類と噴火様式に特徴があることが判明している(津久井ほか, 1991)。八丈島の始良Tnテフラは、1985年に杉原重夫氏(明治大)を代表とする調査団によって東山東部の末吉で発見された(杉原・小田, 1989)。1993年に同じ末吉の都道脇に厚さ6cmの始良Tnテフラを挟むデイサイト質降下軽石層の露頭が出現し、「第四紀露頭集」で紹介された(菅, 1996)。一方、露頭がある末吉は八丈島で最も人口が少ない地域である。「第四紀露頭集」の刊行と前後して、地元関係者から、地域振興のために露頭を学術研究と観光の両方に活用したいとして、その保存を強く望む声があがった。この要望は町議会で話題となり、町教育委員会が努力を重ねた結果、露頭保存事業が平成9年度に予算化された。1998年3月、土地所有者の全面的な協力を得て、露頭に説明板が設置されるとともに、この露頭とは別の地点で剥ぎ取った始良Tnテフラが八丈町立歴史民族資料館に展示された(図1)。八丈町ではさっそく町営観光バスを露頭で停めて解説を行っているほか、露頭のパンフレットを作成して住民と観光客に配布する準備も進めている。八丈町によるこの一連の事業は、「第四紀露頭集」の刊行目的を達成した最初の事例として高く評価されるが、残る課題は温暖多雨で露頭の風化と植皮の進行が早い八丈島で、今後どのように露頭を保全していくかであろう。

説明板が設置された露頭は末吉中心部の北約1kmの地点にあり、地点標(都道に500m間隔で設置)No.26が目印になる。1/25000地形図『八丈島』では、図幅の南端近く、末吉の地名の右上にあたる。地層が展示された歴史民族資料館(無休, 9:00~16:30, 入場料310円)は、島内で発見された遺跡に関する展示も充実しており、また、植物公園内の八丈ビジターセンター(無休, 9:00~16:30, 無料)では、自然観察員が常駐して八丈島の自然を展示・解説している。1999年春には中之郷に建設中の東京電力(株)の地熱発電所が稼働を始め、併設の地熱PR館が開館する。変化に富んだ火山地形、黒潮に囲まれた独特の生物相と歴史・文化を持つ八丈島は、自然科学・人文科学の研究者にとって魅力が尽きない島である。観光を兼ねて足を運んでみてはいかがだろうか。

[問合わせ先] 八丈町教育委員会教育課社会教育係 04996(2)1121(代)

引用文献

- 菅香世子(1996) 始良Tnテフラを挟む八丈島東山火山末吉Iステージの降下軽石層。日本第四紀学会第四紀露頭集編集委員会編「第四紀露頭集 - 日本のテフラ -」: 222, 日本第四紀学会
 杉原重夫・小田静夫(1989) 八丈島東山(三原山)火山のテフラ層中の始良Tn火山灰・鬼界アカホヤ火山灰の発見とその意義。日本火山学会講演予稿集, 1989年度春季大会: 98
 津久井雅志・森泉美穂子・鈴木将志(1991) 八丈島東山火山の最近22,000年間の噴火史。火山, 36: 345-356

富士見西方のテクトニックバルジの構造を示す大露頭の紹介

太田陽子(専修大学)・吾妻 崇(地質調査所)

系静線中部,富士見付近において,左ずれに伴うテクトニックバルジの構造と形成期を明らかにする大露頭が出現した。この露頭は,北北西-南南東方向の長軸をもつ中山という丘の北端を削ってできたものである。かつてこの丘の西端でトレンチ調査が行われ,ほぼ垂直な断層群とそれから派生した逆断層群が出現した。そしてこの中山がテクトニックバルジであると推定されたが(系静線活断層系発掘調査研究グループ,1988),それを確証する露頭をみることが出来なかった。今回出現した大露頭では中山を構成する段丘堆積物,それを覆うテフラ,段丘堆積物の基盤をなす地層の3者が明瞭に現れている(表紙写真)。この露頭の北東端の下部はすでにコンクリートで覆われてしまった。富士見町ではこの露頭の保存運動を展開している。非常に大きな露頭なので,まだ詳しい調査を行っていないが,ここにその露頭の写真を示し,観察したことのあらましを述べる。

中山を構成する段丘堆積物には,赤石山地から由来する中・古生界の砂岩,片岩などの亜角礫が多く含まれ,西方から運搬された扇状地性の堆積物である。この堆積物は丘の形態と同様にドーム状の断面をもつ変形を示している。段丘堆積物の上には弱い古土壌を伴うローム質火山灰がのり,その上に厚さ約1mに達する粗粒な軽石を含む御岳第1テフラ(On Pm1)がのる(中山を構成する面にOn Pm1がのっていることは上記の文献にすでに記載されている)。したがって,段丘堆積物は約10万年またはそれよりも少し以前(On Pm1下の火山灰の年代による)に堆積したとみなされる。当時,中山は扇状地の末端であり,それ以降に現在のような形に変形したものである。段丘堆積物の基盤は層理の明瞭な砂礫,シルト,粘土などの互層からなり,亜炭を伴っている。層相から湖成の堆積物と思われ,第四紀中・後期の教来石砂礫層にあたるものであろう。これは,段丘堆積物とは弱い不整合で接しており,かつ段丘堆積物とほぼ平行するドーム状の断面をもつような変形をしている。したがってこの変形はすべて段丘堆積物形成以降の変形で説明でき,中山の形成に関係した若宮断層の活動開始期がほぼ10万年前(あるいはそれより少し古い)であることを示している。断面で見ると,堆積物の西に急な非対称な変形は地形と調和している。

この露頭では,頂部での局地的な正断層,湖成層中に見られる層間異常,火山灰を覆う土壌中に見られる小規模な逆断層や地滑りなど,さまざまの小規模な変形を示す資料がある。この露頭が保存されるかどうかはまだ決定していないので,少しでも多くの方にこの露頭を観察していただきたいと考え,予察的な記事を書いた次第である(1998年12月18日)。

文献

系静線活断層系発掘調査研究グループ(1988)系静線活断層系中部,若宮,大沢断層の性格と第四紀後期における活動-富士見,茅野地区における発掘調査-。地震研究所彙報,63,349

「アジアにおける陸と海のリンク」に関する国際ワークショップのお知らせ

地質調査所と科学技術国際交流センターでは「アジアにおける海と陸のリンク」に関する国際ワークショップを来年3月につくばで開催します。海外から約50名の参加が予定されております（下記プログラム参照）。

日程：1999年3月16-18日，

会場：研究協力センター（つくば市竹園 2-20-5, tel. 0298-51-1331）

すでに発表や事前登録の受付は終了していますが，当日登録も50名まで可能です。参加希望の方は，プロシーディングなどの準備もありますので，できるだけ事前に事務局までご連絡頂きますようお願いいたします。なお事前登録をされていない方の懇親会参加費は7000円です。

ワークショップ正式名称：

「沿岸・外洋遷移域における物質輸送と貯留に関する国際ワークショップ」

副タイトル

「アジアにおける陸と海のリンク」に関するエメリー教授追悼国際ワークショップ」

国際ワークショップ事務局

地質調査所海洋地質部 斎藤文紀

電子メール yoshi@gsj.go.jp

(305-8567 つくば市東 1-1-3 . 電話 0298-54-3772 , Fax0298-54-3589)

「アジアにおける陸と海のリンク」に関する国際ワークショップ プログラム

March 16 (Tue)

Scientific session at Tsukuba Center for Institutes

900-920 REGISTRATION

920-930 WELCOME & OPENING ADDRESS:
S. NAKAO & Y. SAITO

Prof. K.O. Emery Commemorative special session
CHAIRS: J.D. Milliman & Y.A. Park

930-935 Opening address by chairs

935-1000 SHEN Huanting: Material fluxes and land-and-ocean interactions in the Changjiang (Yangtze) estuary

1000-1025 HU Dunxin: Material flux in the East China Sea

1025-1050 Kazuo ISEKI, Kazumaro OKAMURA and Yoko KIYOMOTO: Particle distributions and transport processes from the shelf to the Okinawa Trough in the East China Sea.

CHAIRS: D. Prior & Y.-z. Yang

1050-1115 Shizuo TSUNOGAI: Carbonate system of the East China Sea: A continental shelf pump for the absorption of atmospheric CO₂

1115-1140 John D. MILLIMAN, H.L. Zhao, Y. Saito, Y.A. Park, and H.J. Yu: Late Quaternary environment of the Yellow Sea

1140-1200 Louis R. BARTEK: Techniques for development of stochastic models of the impact of terrestrial versus marine sediment input and processes on the stratigraphic architecture and spa-

tial distribution of facies on continental margins

1200-1330 LUNCH

CHAIRS: K. Iseki & D. Hu

1330-1355 Kozo TAKAHASHI: The Okhotsk and Bering Seas: critical marginal seas for the land-ocean linkage

1355-1515 POSTER SUMMARY No. 1 to 25

1515-1700 COFFEE BREAK & POSTER

1800-2030 WORKSHOP DINNER at "San-Sui Tei"
March 17 (Wed)

Scientific session at Tsukuba Center for Institutes

CHAIRS: A. Taira & S. Volkhard

915-940 Vaidyanatha SUBRAMANIAN: Quantity and quality of sediment delivery from the Ganges-Brahmaputra rivers to the Bengal Delta.

940-1005 Steven KUEHL: Late Quaternary evolution and sediment budget of the Ganges-Brahmaputra Delta

1005-1030 Hermann R. KUDRASS, V. Spiess, K. Michels, M. Breitzke, A. Suckow, A. Hofmann, C. Huebscher, M. Wiedicke, B. Kottke, M. Weber, and S. Khan: Transfer of terrigenous material from the Ganges-Brahmaputra delta to the Bengal deep-sea fan.-

1030-1055 COFFEE BREAK

CHAIRS: B. Haq & K. Takahashi

シンポジウム案内

1055-1020 John D. MILLIMAN: Events and flux of fluvial sediment to the oceans

1020-1140 Andreas SUTHHOF and V. Ittekkot: Time-varying fluxes and burial of organic carbon along continental margins in the northern Arabian Sea

1140-1200 Maarten A. PRINS and G. Postma: Sea-level and climate signatures in Late Quaternary turbidite successions along the northern margin of the Arabian Sea

1200-1330 LUNCH

CHAIRS: M.E. Field & A. Suthhof

1330-1355 Serge HEUSSNER: Mass transfer and ecosystem response in the Mediterranean Sea: The European Union MATER project (MAST III - MTP II)

1355-1420 Serge BERNE: Sedimentary processes and Late Quaternary depositional sequences on the English Channel, Bay of Biscaye and Gulf of Lions continental margins (France, Europe)

CHAIRS: H.K. Wong & Chen Z.

1420-1535 POSTER SUMMARY No. 26 to 50

1535-1700 COFFEE BREAK & POSTER

March 18 (Thu)

Scientific session at Tsukuba Center for Institutes

CHAIRS: C.A. Nittrouer & H.R. Kudrass

915-940 How Kin WONG: Upper Quaternary seismic stratigraphy and sedimentation on the Sunda shelf

940-1005 Gregg J. BRUNSKILL, I. Zagorskis, and J. Pfitzner: Project TROPICS: Geochemical mass balance for B, Li, and Sr in the Gulf of Papua, Papua New Guinea.

1005-1030 David PRIOR, A. van der Spek, M.A. Tutton, J. Buleka, J. Abrahams, G. Kuna, B. van der Valk, and A. Denniss: High energy sediment transport processes - from the coast to deep water - Huon Gulf, Papua New Guinea

CHAIRS: R. Hiscott & K. Ikehara

1030-1150 POSTER SUMMARY No. 51 to 70

1150-1400 LUNCH & POSTER

CHAIRS: S. Berne & S. Kuehl

1400-1425 Charles A. NITTROUER: Latitudinal impacts on sediment supply and accumulation for Pacific collision margins

1425-1450 Michael E. FIELD: Sedimentary response of Pacific-style margins to high frequency sea-level change: The record from California

1450-1515 Asahiko TAIRA: Sediment transport and strata formation in an arc-trench system: examples around the Japanese Islands (tentative)

1515-1540 Makoto ITO: Late Pleistocene shallow marine depositional systems in paleo-Tokyo Bay, northern Boso Peninsula, Japan

CHAIRS:

1555-1630 DISCUSSION toward Asia STRATAFORM research & future meetings

1630-1640 CLOSING ADDRESS

March 19 (Fri) Field discussion

[巡検の募集は終了しています]

730-1800 FIELD DISCUSSION in the northern part of Chiba Prefecture

Title: Late Pleistocene shallow marine depositional systems in paleo-Tokyo Bay, northern Boso Peninsula, Japan

INTERNATIONAL GEOLOGICAL CORRELATION PROGRAMME PROJECT No. 396: CONTINENTAL SHELVES IN THE QUATERNARY 4th ANNUAL CONFERENCE

CAPE TOWN, SOUTH AFRICA, 28th JULY to 2nd AUGUST 1999

国際第四紀研究連合 (INQUA) 第15会大会に先立って南アフリカでIGCP396の第四回大会が開催されます。 <http://www2.env.uea.ac.uk/gmmc/igcp/capetown/igcp99.html>に会議の詳細と参加申し込み様式があります。急ぎお申し込み下さい。

Sponsors:

UNESCO/International Union of Geological Sciences

Host:

The University of Cape Town

Supporting bodies:

Climates of the Past (CLIP)

Commission on Quaternary Shorelines

IGCP 404

We are pleased to announce the fourth annual conference of IGCP 396 in Cape Town, South Africa. It will consist of oral and poster paper sessions, two full-day field excursions, various business meetings and a half-day workshop. The timing will allow delegates to proceed immediately after closure to attend the 15th INQUA Congress in Durban. IGCP 396 is a 5-year project currently in its third year. This is the fourth annual conference following Sydney in 1996, Durham in 1997 and Goa in 1998.

Topics to be covered:

Geochemistry of sediments

Global and regional perspectives

Palaeoceanography
 Marine geotechnics
 Dating shelf sequences and land-sea correlation
 Non-living resources
 Seismic stratigraphy
 Modelling
 Shelf processes
 Record of coral reefs
 Record of continental palaeohydrology
 Migration of flora and fauna
 Environmental management of marine mining

Provisional programme:

Wednesday 28th July

p.m.: Registration and half-day workshop on 'Quaternary placer deposits of the West Coast of southern Africa', convened by Dr Mike Shaw, De Beers Marine, Cape Town. Breakwater Lodge Conference Centre, Waterfront, Cape Town. Business meeting. Evening: opening mixer

Thursday 29th July:

Registration. Field excursion: Langebaan Lagoon and the Quaternary of the West Coast.

Friday 30th July:

Registration. Field excursion: a visit to De Beers Marine laboratories followed by trip to Cape Point.

Saturday 31st July:

Registration. Scientific sessions at Breakwater Lodge Conference Centre, Waterfront, Cape Town.

Sunday 1st August:

Scientific sessions at Breakwater Lodge Conference Centre, Waterfront, Cape Town. Conference dinner at a waterfront restaurant.

Monday 2nd August:

Scientific sessions at Breakwater Lodge Conference Centre, Waterfront, Cape Town, followed by business meetings and closure.

Registration:

Foreign delegates: (full) US\$200 before 31 May 1999, thereafter US\$225

Local delegates and delegates from developing countries: (full) US\$ 150 (or ZAR850) before 31 May 1999, thereafter US\$175 or ZAR1000).

Full-time students: US\$100 (or R600) before 31 May 1999, thereafter US\$125 (or R750).

Accompanying persons: (foreign) US\$100 before 31 May 1999, thereafter US\$125; (Local and developing countries) US\$50 or R300 before 31 May, thereafter US\$75 or R450).

Workshop only: US\$50 (R300)

Funding:

Some funding is expected to be available to assist foreign participants from developing countries to attend. Please

apply to one of the project co-leaders for further information.

Abstracts:

The call for abstracts will be made in the second circular to be distributed in March 1999. Note that each participant is likely to be limited to one oral and one poster presentation.

Accommodation costs:

The Breakwater Lodge offers a range of accommodation options. At the Lodge itself, there are 3-star quality rooms from as low as US\$42 per night including breakfast and higher grade rooms range in price up to US\$70. Budget accommodation is available close to the conference venue, as is an extensive selection of 4 and 5 star luxury hotels at correspondingly higher cost. Please specify on registration if you wish to share with named person.

Field excursions:

Thursday 29th July

West Coast and Langebaan Lagoon:

The excursion will focus on coastal, lagoonal and shallow marine processes associated with the area between Cape Town and Langebaan Lagoon, some 120 km to the north. Langebaan Lagoon, a large, shallow water inlet and lagoon, has been the focus of considerable research into lagoonal processes, and rates and patterns of sedimentation. Dunefields and palaeoshorelines in the region also provide an important research focus. The lagoon is situated in a National Park and delegates should be afforded the opportunity of viewing the natural vegetation of this semi-arid region together with its associated animal communities. We will visit the newly established Fossil Park, at Langebaanweg, which possesses an impressive array of Late Cenozoic animal fossils.

Friday 30th July

Cape Peninsula (including Cape Point):

This trip commences with a visit to the Offices and Laboratories of De Beers Marine, an organisation responsible for extensive diamond mining in the continental shelf and onshore deposits of the West Coast. We then examine the coastal geology and geomorphology of the Cape Peninsula and visit the Cape of Good Hope Nature Reserve and Cape Point to examine evidence for Quaternary sea-level changes and Holocene onshore processes. If time and weather allows, we also aim to accommodate a trip up the Cable Car to the summit of Table Mountain - the intention being to do this on the Thursday or the Friday depending on weather.

Contacts:

Convenor: Associate Professor Mike Meadows, Department of Environmental and Geographical Science, University of Cape Town, Rondebosch 7701, South Africa. Tel: (27) 21 650 2873; fax: (27) 21 650 3791; e-mail: meadows@enviro.uct.ac.za

Sweden Excursion May 1999: Uplift – Sea Level Changes – Paleoseismicity – Climate – Coastal Dynamics, Science & Culture, May 24-31, 1999

INQUA Shoreline Commission, INQUA Neotectonics Commission and IGCP-999

Theam of the excursion:

The glacial isostatic uplift from the center (+294 m) to the periphery. The tilted shorelines. The evidence of sea level oscillations. Their interaction with climate and oceanic circulation changes. The climatic changes. The cooling at ~2500 BP. The short-term fluctuations. Sedimentary sequences. Evidence of high seismic activity at around the time of deglaciation. Paleoseismic indicators; faults, fractures, liquefaction, turbidites in the varved clay. Paleotsunamis. The varved clay chronology and its use in paleoseismology. Coastal dynamics; regressional coasts, transgressional shorelines, morphology of beaches.

PROGRAM

May 24, Monday

Gathering in Umeå during the day. Introduction. Evening reception.

May 25, Tuesday

Travel by bus from Umeå to Iggesund (Njutånger) Kassjön lacustrine varves and paleoclimate. Land uplift & shore displacement.

Old Backböl harbour from Medieval time, the +294 m Marine Limit at Skuleberget and subsequent shore marks, the coastal evolution at a +10 mm/yr rate of uplift, the Nordingrå seismotectonic area (as realized by De Geer), the deglaciation, uplift and shoredisplacement - and varve chronology (Lidén), liquefaction and turbidite of the 9963 BP paleoseismic event.

May 26, Wednesday

Studies around Iggesund (Njutånger) the Boda cave system, the slides, turbidites and liquefactions close by (of the 9663 BP event), the deformations and tsunami deposits in Hög gravel pit, the deposits inland and the Marine Limit, the fractured bedrock at Aftonsjöberget, the shorelines and coastal dynamics of Hornslandet, the remarkable bedrock hill fracturing at Skedboberget, the varves and 9663 BP turbidite at Siik, evening seminar in the hotel

May 27, Thursday

By bus from Iggesund to Åker Further data on the 9663 BP paleoseismic event, the old shore marks at Ratan, the coastal dynamics in the Furusund

area, the 7000-6000 BP Littorina beaches at Tiarp, the Uppsala esker, the Old Uppsala mounds, the university town of Uppsala, runic stores and historical monuments, the Enköping esker

May 28, Friday

Studies in the Åker area

Varved clay, bog stratigraphy and shoredisplacement, integration of natural and cultural history, traces of a 3500 BP paleoseismic event, canoeing through the Marviken fracture valley, historical-archaeological monuments, tracing the onset of iron ore utilization, evening at the Skottvång Mine

May 29, Saturday

By bus from Åker, via Stockholm to Kinna on the west coast

The shoredisplacement during the last 3000 years (isostasy, eustasy, local hydrology and climate), the autumn 10,430 BP super-paleoseismic event (liquefactions and varve dating), shoredisplacement, varve chronology and deglaciation around Stockholm, (the Stockholm esker, annual moraines, Lyell's oak), the P&G department, Late Holocene shoremarks, 5 successive paleoseismic events at Stockholm, the Albysjön varve recording of the 10,430 BP event, a review of the liquefactions and turbidites on Södertörn, six hours drive Stockholm-Kinna with scenic and scientific stops and dinner en route possible papers and discussions en route

May 30, Sunday

By bust from Kinna to Båstad/Torekov

Shore displacement and deglaciation, the Fjärrås moraine, the sedimentary recording of Alleröd and Younger Dryas, the shore displacement in the Viskan Valley (ML-RL-PL), the fourfold division (ASF-ALV-PSF-RLV) evidence of sea level oscillations, the 11,700 BP paleoseismic event, the Postglacial Limit (PL) along the coast, the shoredisplacement at Halmstad

May 31, Monday

Stuies on the Bjäre Peninsula (Båstad/Torekov), shore displacement and deglaciation, the Marine Limit (ML) and subsequent late glacial shore marks, the Regression Limit (RL) and submarine evidence, the Postglacial Limit (PL) and postglacial sea level oscillations, traces of possible

postglacial paleoseismic events, shore morphology and coastal dynamics, paleowind records, the disastrous project of a tunnel through the Hallandsåsen Horst, evening together; summing up & farewell

June 1, Tuesday

Day of Departure; bus from Båstad/Torekov via Helsingborg to Stockholm at Helsingborg catching the airbus (or train) to Copenhagen by returning bus back to Stockholm for departure late the 1st or on the 2nd

Papers and posters:

This can be given in the evening of days 2, 3 and 5 and in the bus on day 6.

Excursion cost:

Thanks to very special arrangements and personal contact, we can arrange this excursions for a total cost (hotel, din-

ner, lunch, fees, guide) of **500 USD**. Our esperation is to get granting for the bus cost. We are looking into the possibility of some student grants. Also, a few arrangements may be obtained via the Swedish Institute.

Realization:

We intend to run this excursion as planned regardless if we get a very large group or only a small group. So, please, begin your arrangements an inform me about your intension. **Feel very welcome to this unique excursion in Sweden.** The esperation is to combine Science, Culture and Fun – with Quality in centre.

Nils-Axel Mörner: morner@pog.su.se

fax. 46-8-7906777

Paleogeophysics & Geodynamics,

S-10691 Stockholm; Sweden

17期・第5回第四紀研究連絡委員会 議事録

日時：1998年11月30日(月)13:30～17:00

会場：日本学術会議第5部会議室

出席：太田陽子 鎮西清高 大場忠道 小泉 格
吉川周作 小野 昭 欠席：小野有五 小池裕子
酒井潤一 坂上寛一 砂村継夫 増田富士雄
町田 洋(敬称略)

1. 報告

1) 日本学術会議 第129回総会(1998年10月28・29日)報告(鎮西清高氏)
・学術研究団体の登録に関する規則の一部改正について。
・これからの学術研究の方向、あり方についての自由討論の結果の報告、とくに学術研究と科学技術政策の関係について。

・第4部会の報告では、地域に関する研究の振興、測地規準系の改訂、研連の見直しについての具体案の詰め、研究機関の法人化問題など。(資料あり)

2) シンポジウム(主催：日本学術会議第四紀研連・IGBP研連、共催：日本第四紀学会・日本雪氷学会)「急激な気候変動・モンスーン変動・ダスト変動の謎をとく」の実施報告(大場忠道氏)

2. 審議

1) 国際会議代表派遣について

1999年8月開催予定の、第15回国際第四紀学連合(INQUA)大会(南ア・ダーバン市)への代表派遣につき、投票で選出をおこなった。その結果、第1位で小野有五氏を、次点で町田洋氏を選出した。

2) INQUAの次期役員候補の推薦について
この件につき、議論の結果、下記の通り推薦を決めた。具体的には、太田陽子氏が、National committeeの委員長として、下記の役員候補を、推薦することとした。会長：N.J. Shackleton 書

記：S. Haldorsen 会計：J. de Mulder(学術会議事務局に確認したところ、INQUAへの1998年の日本の分担金は、1012500円=12500スイスフランであり、支払い済みである)

3) 今後の活動

(1) 第四紀研連17期中に計画のシンポジウムテーマについて。

以下の計画案が提案された。

古土壌関係 オーガナイザー 坂上寛一氏ほか
最近の第四紀研究の進歩と課題(仮題) オーガナイザー町田洋・小池裕子氏ほか(INQUAダーバン大会への対応シンポとする)

考古学人類学関係 オーガナイザー小野 昭ほか若干名を予定(仮)更新世/完新世移行期の年代論と考古学・人類学-その相対年代・理化学年代・暦年換算年代をめぐって-2000年の6月頃か
(2) INQUA大会の日本開催招致の検討委員会の設置について

日本開催に関する検討を始める委員会を設けることとし、研連からは、互選で太田陽子、小野有五、小野 昭が選出された。日本第四紀学会からも委員の選出を要請し、合同の委員会を発足させたい旨を決める。

4) その他

(1) 第四紀学関係の教育カリキュラムに関して 報告(大場忠道氏)

第四紀研連(第16期)のワーキンググループは、実施したアンケート結果を、「大学における第四紀学の教育・研究の現状について」として簡潔にまとめた。これを「第四紀通信」に掲載してもらう。

(2) 研連の見直し問題について

報告(鎮西清高氏)

見直しについては17期に決定、18期は移行期、19期に新研連体制の流れとなる予定である。この件で自由に討論した。

次回の日程は 1999年2月22日(月)

日本第四紀学会 第11回幹事会議事録

日時：1998年10月24日(土) 14:00～17:00

場所：筑波大学学校教育部 E233室

出席者：米倉会長、太田副会長、真野幹事長、小野、松浦、斉藤、山崎、山本(学会事務センター)

報告事項

庶務幹事報告

・本会会員木村英明氏(札幌大学)の岩宿文化賞受賞報告

・講演会の協賛：海洋調査技術学会第10回研究成果報告会

・地質学会 News の関連学協会コーナーに「日本第四紀学会の紹介と行事予定」を掲載。

・受け入れ図書報告

会計幹事報告

・現状支出は予算に比べて約10万円の赤字になっている。

編集幹事報告

・投稿論文数が多く当面毎号の増ページをはかる必要あり。

・6号化に伴って、11月頃から動き始める。

・書記給与の値上げ11月から実施する。

・第四紀通信を付録として第四紀研究と同時に発送するため、現在得ているISSN番号を登録抹消する。

・原稿の入稿は発送の1.5ヶ月前。発送日は偶数月の1日とする。

行事幹事報告

・1998年度小田原大会の報告

・合同大会プログラムについて

・1999年大会準備状況報告

研連報告

・INQUA日本招致の検討会をつくり、開催の可否について検討したい。次回幹事会に提案する。

会長報告

・国際海洋学会議の日本開催(2001年、北海道)について、第四紀学会は古生物学会と共に主催学会として国内委員会を全面的に支援する。

小野幹事報告

・上高森遺跡の巡検及びシンポジウム 11月7～8日に実施する。

審議事項

・学協会著作権協議会からの複写権の登録依頼に対する対応：第四紀学会はcopy freeの方針であり、登録しないことに決定。

・科研費出版助成金の申請書計画調書作成について

・論文賞の改正について

現在の論文賞を研究奨励を目的とした奨励賞に改める。若手を対象とするが必ずしも年齢だけを条件としない。また、学会賞も制定するがその内容については別途委員会を設けて検討する。奨励賞の内容については次回までに庶務幹事が具体案を作成する。

・第四紀講演会、評議員会の日時について

評議員会・講演会は1月30日(土)午後13:00に実施する。講演会の講師、会場は今後選定する。

後に講師は木村英明氏、会場は茗溪会館(茗荷谷駅前)、時間は13:30から15:30と決定された。

・次回幹事会は12月19日(土)14:00～ 会場は筑波大学学校教育部

会員消息

(1998年11月分)

池田敏明 (所属) 中電技術コンサルタント(株)地質部

山口啓子 (所属) 島根大学汽水域研究センター

吉田邦夫 (所属) 東京大学総合研究博物館放射性炭素年代測定室

所属・自宅住所変更

外山秀一

印牧もところ

宮原智哉

銭 祥富 (所属) 大阪市立大学理学部地球学教室人類紀研究室

第四紀通信に原稿をお寄せ下さい

広島大学文学部地理学教室 奥村晃史 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3

kojiok@ipc.hiroshima-u.ac.jp

Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320

発行スケジュールが変わりました!!

次号は3月上旬旬原稿締切-4月上旬旬発行予定です。インターネットにアクセスできる方は第四紀学会ホームページ <http://www.soc.nacsis.ac.jp/qr/> で最新情報をチェックして下さい。